

自ら考え、学ぶ授業作り

～ネイチャーゲームを通じた授業の中の動機つけ～

記入日：2011年3月30日

横浜市立緑小学校教諭 中里 裕子

1. はじめに

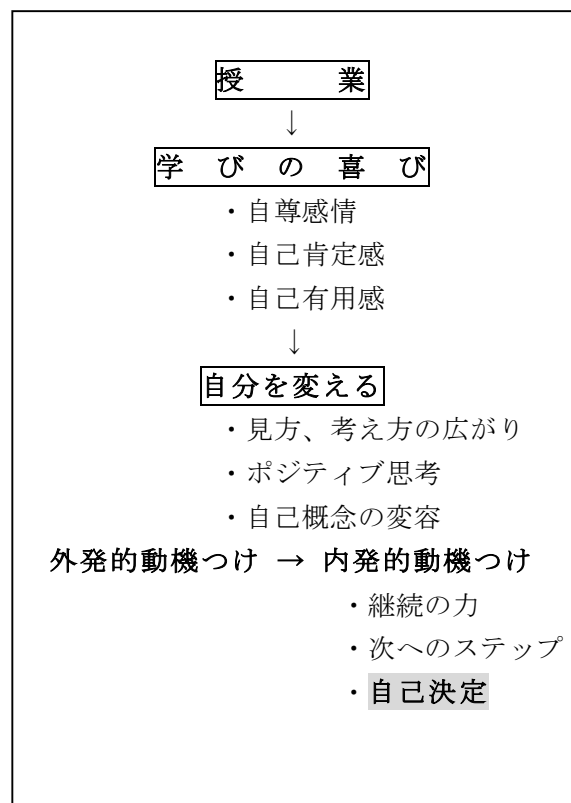
私たち教師の最も大切な仕事は、授業であると考えます。授業を通して知識・人との関わり・環境との関わり・自己決定力・自分を知る等々多くのことを伝えていくことができます。子供たちは自分の持つ力を発揮したいという思いを持っています。その思いを表現するには、どの子も学級の中に自分の存在を感じる居場所が必要なのだと思います。その居場所づくりの力となるのは、自尊感情や自己肯定感をもつことと考えます。そのためには、自ら動こうとする内発的動機づけが大切となります。そこで、ネイチャーゲームを授業に取り込み動機づけをしていくことを試みることにしました。

ネイチャーゲームには、カウンセリングマインドが多く取り入れられています。（『ネイチャーゲーム指導者ハンドブック 理論編』P96 心理学 参照）「教師のカウンセリングマインドとは、児童の心理を十分に理解し、児童の気持ちになって児童の自立と成長の手助けとなる指導・援助・助言することである。」（『カウンセリングを生かした授業作り』より）子供たちひとりひとりを受容し、クラスみんなで共感的理解をしていくことで、子供たちに動機付けができるものと考えました。本授業では、授業の中に一人ひとりの活動の場を補償し、ひとりひとりを認め合うことで、次の活動への動機つけを試みるものです。

ネイチャーゲームを取り入れた楽しい授業で、子供たちは学びの喜びを持ちます。自分の力で見つけたり、気づいたことを分かち合ったりした楽しい体験を伴った気持ちは、自尊感情や自己肯定感・自己有用感を育てます。これらが土台となって見方考え方が広がり、ポジティブにもの考えるようになり自分を変えていくことにつながっていくのではないかと考えました。

（図 参照）

図) 授業から生まれる力とは何か



2. 2年生生活科「冬の町となかよしになろう」

冬の町や自然の様子を見たり聞いたり体験したりして感じるができる。

3. 本時目標

公園には、たくさんの生き物や植物があり、みんな命のつながりがあることに気づく。

4. 本時展開

学 習 内 容 と 活 動	援 助	動機付けとカウンセリングマインド
<p style="text-align: center;">公園の自然大好き、大事さがしをしよう。</p> <p>1.公園に落ちている落ち葉を使って[ジャンケン落ち葉集め]をしよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんだんふたり組みになり、ジャンケンをしていき、勝ったらどんだん大きなはっぱを拾っていく。 ・大きいはっぱくらべをして、一番大きなはっぱの子をみんなで拍手する。 ・小さいはっぱ比べをして、一番小さなはっぱの子をみんなで拍手する。 </p> <p>2.公園の自然大好き、大事さがしをしよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・穴のあいた葉っぱをさがしてくる。みつけたら、もとのところに戻りみんなで見せ合い、なぜ穴が開いたのか考える。 ・穴のあいていないはっぱを探してくる。みつけたら、元のところに戻り、みんなで触ったり、においをかいだりする。 ・自分が面白いと思うものを探してくる。みつけたら、元のところに戻り近くの子と見せ合い、自分の自慢を話す。 ・みんなに紹介したいものを出し合い、ひとつひとつが公園の中の大事なものであることを知る。 </p> <p>3.公園のいきものつながりを考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで円くなり、ひとり一枚ずつカードを持つ。 ・一斉にカードを見せ合い、つながりのあるペアを探す。 ・ペアができたら、次はつながりのあるペアを探す。 ・みんなでつながりを考えて一つの円にする。 ・ひとりずつとなりの子とどんなつながりがあるか発表していく。 ・感じたことや思ったことなどの分かち合いをする。 ・公園の生き物や環境が一つのつながりになっていることを確認する。 </p> <p>4.公園で遊んだことで感じたことを感想カードに書く。 (教室に戻って行う。)</p>	<p>見つけられない子にアドバイスする。 ジャンケンに入れない子とジャンケンをする。</p> <p>だれでも見つけられるものからはじめる。 動き出せない子にどこにいけば見つかるか声をかける。 面白いものでも、変なものでも、自分が「あっ」と感じたものでよいことを話す。</p> <p>できるだけ子供たちの力に任せる。 こまっている子には、教えるのではなく、質問して答えを自分で導いていけるようにする。</p>	<p>・教師が例示してみんなとジャンケンする。(動機付け) <ul style="list-style-type: none"> ・大きいはっぱや小さいはっぱをみんなで比べてジャンケンで集めた葉を見合う。(受容・共感) </p> <p>・はっぱの穴からのぞいて楽しみ、形に着目できるようにする。(動機付け)どんな風にたべたのか思いをはせられるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんなものを見つけてきても否定しないで認める。(受容) ・どの子も自分のみつけたものの話ができる場をつくる。 ・見つけたものは、元のところに戻す。 ・自分が見つけてきたものは、公園の自然にとって大事なものであることを知らせる。 </p> <p>・公園にいる生き物、植物をカードにする。クラスの数分準備する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分も輪の中に大切なものだと感じられるよう発表したら手をつないでいく。 </p> <p>・(自己開示)</p>

5. ジャンケン落ち葉集め

子供に出てもらい見本をみせてからはじめました。勝ったら一枚葉を拾います。二度目は、前の葉より大きな葉を拾っていきます。子供たちは、どんどん相手を変えてジャンケンしていきましました。私は、なかなか自分からいけない女兒のところへ行ってジャンケンをしました。自分から筆者のところへ来る子もたくさんいので、そのこたちが近くにいた女兒ともどんどんジャンケンをして輪の中に取り込んでいきました。

6. しぜんのだいすきだいじさがし

場所を移動して、「しぜんのだいすきだいじさがし」をしました。お題には、誰にでも取り掛かりやすい「あなのあいたはっぱ」「木の実」「おもしろいもの」の3つにしました。穴のあいたはっぱを拾って何故穴が開いたのかみんなで考えたり、木の実をみんなで10種類集めたりしました。「おもしろいもの」を見つけるとき、なかなか動けなかった女兒がしばらくして私のそばに来て黙って石を見せてくれました。「きれいな石だね。どんなところが気に入ったの。」と聞くと「グレーのところと緑色があるところ。」といいました。「どれどれ、わあ、きれい。」というとにこっと笑いました。みんなが戻ってきたので自分がみつけたおもしろいものを近くの友達とシェアしてもらいました。紹介したい子に発表してもらいた。少しすると女兒が手を上げました。「この石すごいんだよね。みんなに教えてあげて」というと色のことを話した。みんなに回してみせていくとどの子も食い入るように見て「ほんと、きれい。」と言っていました。自分のところに戻ってきた石を手の中に大切ににぎっていました。

7. ネイチャーループ

公園の環境に合わせたカードを準備した。自分のカードが何とつながるかわからないでいる子には、そばに行って住んでいる場所や食べ物などをきいたり、クラスの子にアドバイスをもらったりしてなんとか2人組みができました。つぎは、ひとつの円になっていきます。担任の先生にもサポートしてもらい、子供たちにもなにとつながるかなあと質問しながらひとつの円にしていきました。ひとりひとりとなりの子のカードにどんなつながりがあるか発表して手をつないでいきました。最後に全員の手がつながりみんなで手を上げました。どれも公園にとって大切なものであることを確認して終わりました。

8. 考 察

①内発的動機つけ

ネイチャーゲームは与えられた活動ですが、体験そのものは自ら考えて動き、自らの感性で獲得した気づきであると考えます。

「すごいなあ」と感じたこと「たのしいなあ」と思ったこと「うれしいなあ」と思ったこと「もっとやりたい」と感じたこと。このような気持ちを持たせる外発的動機付けを設定し、その活動を子供たちが自分の力で創造し獲得していくことで内発的動機付けが出来るのではないかと考えます。具体例では、はじめクラスの子とかかわらず自分の好きなように行動していた男児が、自ら行動し始めたのは「自然大好き大事探し」からです。「木の実探し」から進んで探しはじめました。すずかけの実を見つけていましたが、何かを興味深く見ていました。私は何かあるんだなと心にとめておきました。自分の好きなものを探すところになると男児は真っ先にそこへ行ってすぐに拾って持って来ました。それは、ハートの形のすずかけの実だったのです。ああ、これだったん

だなど男児の興味を知りました。このハートの実がみんなに認められたことを喜んでいました。後の感想で、「公園に10種類も木の実があるなんてすごいなあ。」とみんなでシェアしたことに興味を持つことができました。はじめは、関心のない男児でしたが、みんなに認められたことで自尊心や自己有用感がもてたのではと考えられます。そのことでもっと、木の実を探してみたいと次への活動の意欲ができたのではないかと推察できます。今回の授業では、同じ公園で「公園にあるものしりとり」「自然バス等ケット」「自然あそびづくり」など子供たちの感性を生かした新しい活動に広げていく可能性を十分に感じる感想がありました。

ネイチャーゲームの活動を通して、授業の中にひとりひとりが自分の考えで行動する場面をつくり、その行動や発見・努力を認め肯定することで、内発的動機づけとなり、安心して次の学びへ進んでいくことができるのではと思いました。

②カウンセリングマインド

ネイチャーゲームの「分かち合い」に着目しました。授業の中ですべての子供に常に目を配ることは、至難の業です。でも、一人ひとりの気づきや思いを自分の中からアウトプットさせていくことはできます。今回は、随所に分かち合いを設定しました。見つけてきたものを隣の子とシェアしたり、グループでシェアしたりする時間を作りました。さらに、自分だけでなく友達のもので見てみたいと思ったことやみんなに紹介したいと思うことを言える時間も作りました。普段から自分だけでなく、友達のすごいところやすばらしいところをクラスのみんなに紹介していきける雰囲気や時間を設定していくことで、いろいろな子が認められる機会を増やすことができると考えます。教師一人ですべてをしようとするのではなく、クラスの子供たちみんなでカウンセリングマインドを持っていくことが望ましいと思いました。(注:東京成徳大学大学院における研究生研究報告より抜粋)